

# 令和7年度 意匠出願動向調査：数字で見る世界シェアと実務の最前線

## 制度活用の光と影（ヒアリング調査より）



評価される「関連意匠」と「新規性喪失の例外」



一貫したデザイン保護や  
手続負担の軽減



一貫したデザイン保護や  
手続負担の軽減



権利範囲の不透明さが  
最大のボトルネック  
画像畵区や建築物畵区の  
「どこまでが権利か読みづらい」



出腫UI/UXと  
コストへの不満  
使い勝手や類似範囲の  
予見可能性の低さ

米国  
(USPTO)  
46,959件  
(+11,679件)



欧州 (EUIPO)  
101,982件  
(-11,231件)



韓国 (KIPO)  
45,075件



日本 (JPO)  
28,542件

WIPO (ハーグ制度)  
25,258件

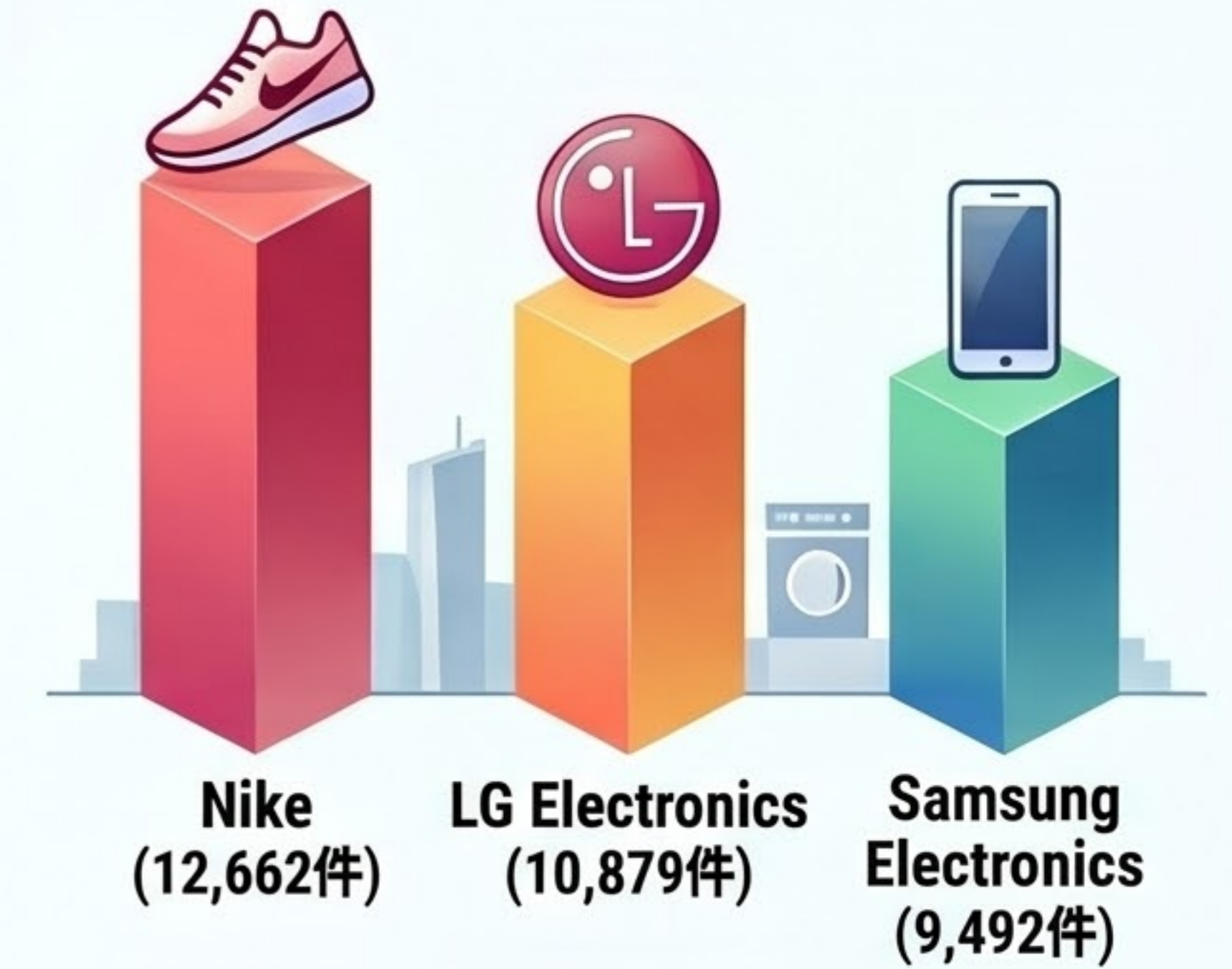


中国  
(CNIPA)  
約74%

韓国  
(KIPO)  
45,075件



## グローバル企業のリーダーと成長株



## 今後のレピュテーションと方向性



知財実務者の  
「信頼できる基礎資料」  
専門家コミュニティ内では  
定着、一般認知度は低い



ターゲットに特化した  
「視覚的な広報」が必要  
対象を絞った個添で  
分かりやすい情報発信

2024年 世界の意匠登録動向  
(合計865,918件, 微増)